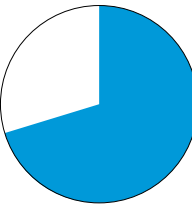
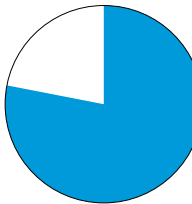
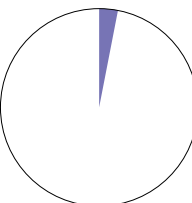
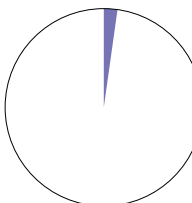
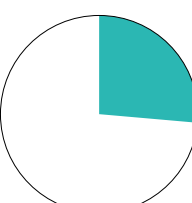
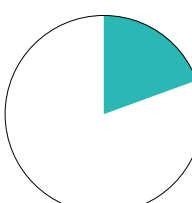
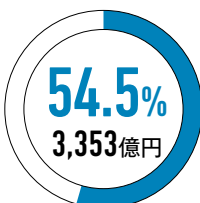
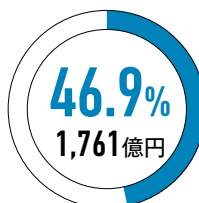
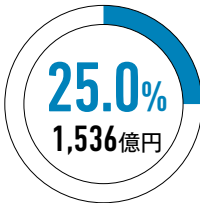
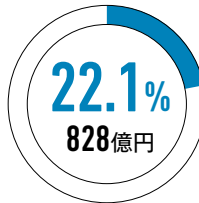
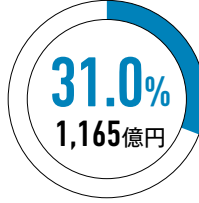


事業別情報

事業		売上高比率 (2019年度)	営業利益比率 (2019年度)	参照ページ
アルミ圧延品 事業	■ 板事業 ■ 押出事業 ■ 箔事業 ■ 鋳鍛事業	 70.4% 5,038億円	 78.1% 125億円	P59
伸銅品 事業	■ 銅管事業	 3.2% 229億円	 2.3% 4億円	P60
加工品・関連 事業	■ 加工品事業	 26.4% 1,888億円	 19.6% 31億円	P60

注：売上高は内部売上高または振替高を含みます。営業利益はセグメント間の調整前のものです。

エリア別情報

エリア	主要拠点	売上高比率 (2019年度)	有形固定資産 (2020年3月31日)	参照ページ
日本	● 名古屋製造所 ● 福井製造所 ● 深谷製造所 ● 日光製造所	 54.5% 3,353億円	 46.9% 1,761億円	P54
アメリカ	● Tri-Arrows Aluminum Inc. ● Logan Aluminum Inc. ● UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.	 25.0% 1,536億円	 22.1% 828億円	P52
タイ・その他	● UACJ (Thailand) Co., Ltd.	 20.5% 1,262億円	 31.0% 1,165億円	P53

北米

増強してきた生産能力を活かして、
旺盛な缶材需要を獲得



事業環境認識

強み (Strengths)

缶材事業

- 世界一の生産性
- 長年にわたる製缶メーカーとの関係
- 原料における高いスクラップ材比率を活かしたコスト競争力

自動車材事業

- 日本・タイの拠点からの供給力
- 新興EVメーカーとの関係
- 部品を製品化するまでの一貫開発力

機会 (Opportunities)

缶材事業

- 年率約3%増の需要伸長
- 他エリアよりも高度に成長した市場環境（価格、用途拡大への期待値）
- 脱プラスチック化を背景とした

缶材需要の伸長

- 競合企業の缶材から自動車材への生産シフト

自動車材事業

- 環境規制による自動車軽量化・EV化ニーズの拡大

弱み (Weaknesses)

缶材事業

- 缶材に特化した事業展開

自動車材事業

- 大手自動車メーカーなどの取引

脅威 (Threats)

缶材事業

- 新規参入および貿易政策の変化による安価な輸入材の増加

自動車材事業

- 他素材との競合
- 新規参入企業の増加

2019年度の概況

北米において主要商材である缶材は、需要が引き続き堅調に推移しており、また自動車軽量化ニーズの拡大を背景とした他のアルミニウムメーカーの自動車材への生産シフトの動きもあって、需給状況が非常にタイトになっています。こうした市場環境であるため、北米の主要拠点であるTAA※1の缶材販売は堅調に推移しています。また、新冷間圧延ラインの立ち上げまでの casting 能力の余剰を活かして、缶材用の地金を製造し、販売しました。加えて、増設したスクラップ・リサイクル炉の活用による製造コストの削減効果もあり、TAAでは経常利益が前年度比24億円増と大幅に増加しました。

※1 Tri-Arrows Aluminum Inc.

今後の見通し

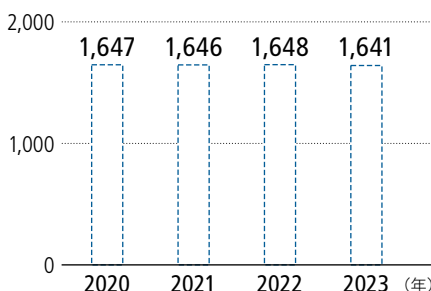
缶材については、コロナ禍における家庭内の飲料消費が増え、需要は供給が追い付かないほど堅調であると予想されています。また、米国の一部地域にて、アルミニウム缶入りのミネラルウォーターが発売されるなど、ペットボトルからの代替需要も見込まれます。TAAは、2020年に完了した増強投資による設備をフル稼働させ、販売量の増加を図るとともに、長期契約更新による数量確保、価格改定を実現させ、さらなる増益を目指します。

自動車材は、UWH※2においてコロナ禍でも新興EVメーカーからの発注が早期に回復しつつあります。また、2022年から量産化する車種の需要獲得に向けた準備を進めています。北米の自動車軽量化による需要は底堅く、今後も成長市場として見込めることから、パネル材の動向も注視しながら、積極的に関与していきます。

※2 UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

缶材消費量(米国)の予測

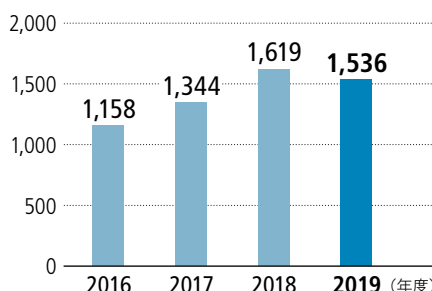
(千t)



出典: CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018

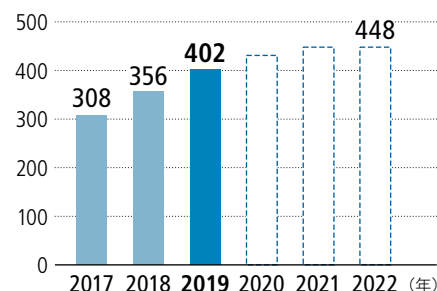
売上高(北米)の推移

(億円)



TAAの年間販売量の推移と予測

(千t)



タイ・その他

UATHの第3期投資が完了し、本格稼働開始。
需要回復期に向けて、生産力向上へ



事業環境認識

強み (Strengths)

- 需要伸長が見込まれるアジア圏へのアクセスの良さ
- 東南アジア唯一の最新鋭設備と32万トン／年の生産能力
- 日本で培った品質管理
- 日系企業をはじめとした製缶メーカーとの長年にわたる関係

機会 (Opportunities)

- 経済成長にともなう旺盛なアジア圏の需要
- 脱プラスチック化の進展による北米・欧州などへの輸出機会の拡大

弱み (Weaknesses)

- 現地オペレーターへの技能伝承の難しさ

脅威 (Threats)

- 中国企業による低価格攻勢
- 貿易摩擦や政治的判断にともなう高関税

2019年度の概況

東南アジア地域の主要拠点UATH*では、第3期の増強投資による設備が2019年7月に立ち上がりました。これによって、その前月に14,000トンであった月産数量が18,000トンに、10月以降は23,000トンへと大幅に増加しました。そして、生産量の増加に合わせて販売量も増加しました。また、10月～12月には四半期での営業黒字を初めて達成しました。操業・運営の面で、オペレーターを含めた現地化が進み、多くのタイ人マネージャーが育ってきたことが大きな要因です。このような進展が見られたことから、UATHでは前年度から経常利益16億円増の業績改善となりました。

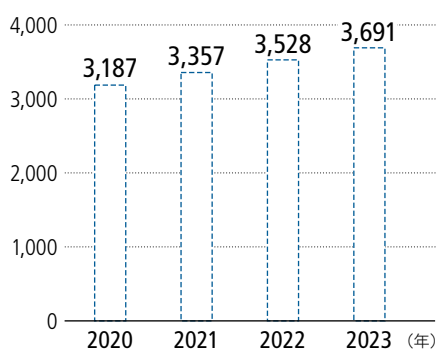
※ UACJ (Thailand) Co., Ltd.

今後の見通し

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、東南アジアの経済活動は制限されています。主力商材の缶材の需要も、都市部のロックダウンと酒類販売禁止などの影響によって低調に推移。制限緩和後も観光客数減少などの影響で景気低迷が見込まれることから、缶材需要が再び成長トレンドに戻るのは2022年度以降と予想しています。

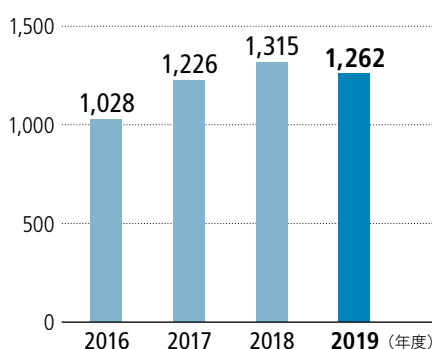
UATHでは、需要回復期に確実に販売数量を増大できるよう、増産した生産力のフル活用を図ります。直接販売機能強化による新規顧客獲得と価格改定、長期契約の獲得、販売地域の拡大を図り、早期に黒字化することを目指します。また、タイ政府などによる缶材リサイクルキャンペーン「CAN to CAN JOURNEY」にも積極的に関与し、需要拡大を後押しします。

缶材消費量(タイ・その他)の予測 (千t)

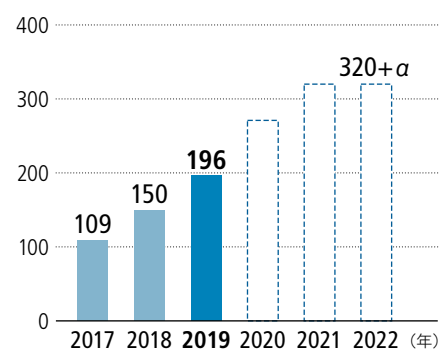


出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018

売上高(タイ・その他)の推移 (億円)



UATHの年間販売量の推移と予測 (千t)



日本

生産拠点の集約化など構造改革を実行し、収益性の高い事業構造の獲得へ



事業環境認識

強み (Strengths)

- 圧倒的なシェア
- 多品種対応能力
- 顧客ニーズとのすり合わせ力
- 大型熱間圧延ラインを2製造所で保有
- 長年にわたる顧客との良好な関係

機会 (Opportunities)

- 脱プラスチック化と自動車軽量化の高まり
- デジタル化の進展によるIT材、半導体関連需要の拡大
- BCPなどを踏まえた国内生産体制の見直し

弱み (Weaknesses)

- 多品種、小ロットでの生産性
- マーケティング力 (新規需要獲得力)

脅威 (Threats)

- 人口減少にともなう市場縮小
- コモディティ化した製品における、安価な輸入材とのコスト競争

2019年度の概況

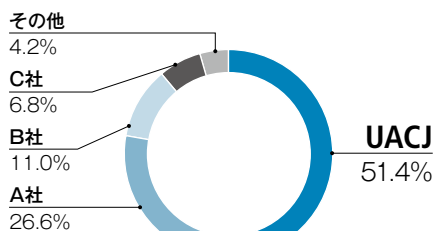
国内事業においては、自動車パネル材を中心に自動車材の販売が堅調に推移しました。しかし、主力の缶材の販売数量は微減となり、IT材や液晶・半導体製造装置用の厚板の販売数量も2018年から続く米中貿易摩擦の影響やそれにとまなう景況感の悪化などによって減少しました。こうしたことから、国内事業全体でも販売数量、売上高共に減少しました。一方、福井製造所の自動車材の仕上ラインや押出事業の名古屋製造所の新型プレスを立ち上げ、国内の自動車材事業の拡大に向けた体制づくりは着実に進展しました。

今後の見通し

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、自動車の生産中止などの経済活動の自粛の影響が出ており、また米中貿易摩擦も長期化していることから、販売数量の減少が見込まれます。また、中長期的には人口減少にとまなう需要の減少も予想されます。

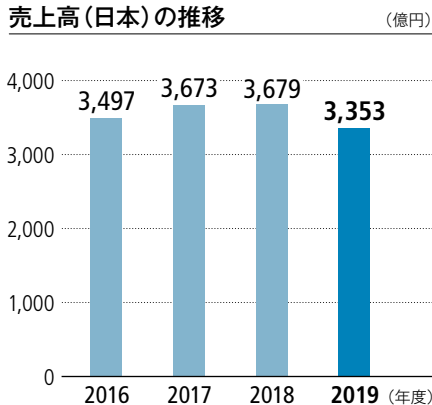
そのため、生産拠点の集約をはじめとした最適生産体制の構築を構造改革の柱の一つとして行っています。損益分岐点を引き下げ、市場縮小のなかにおいても収益性の高い事業として展開できるよう、計画通りに構造改革を進めます。

アルミニウム圧延品国内生産量の比率
(2019年度)

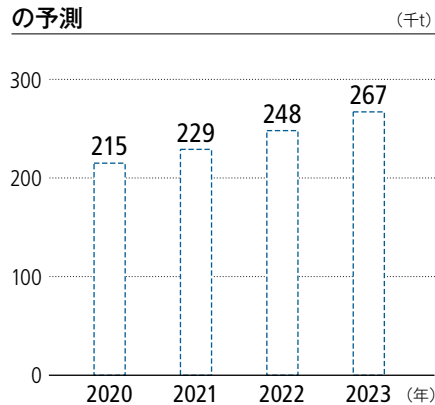


出典：カロス出版『アルトピア』2020年9月号

売上高 (日本) の推移



輸送*向けアルミニウム板消費量 (日本) の予測



*自動車・航空機・船舶などの総称
出典：CRU Aluminium Rolled Products Market Outlook May 2018 等に基づく推定値